

小5


◆江戸時代（3）◆

下巻12回

氏名

得点

各4点
100点

1	江戸時代に幕府や藩が新しい耕地を開墾 <small>かいこん</small> することを(①)という。この結果、豊臣秀吉から百年ほどの間に耕地面積は約(②)倍になった。	①	②
2	農業の肥料として、魚をつかった肥料を(①)といい、菜の花をつかった肥料を(②)という。	①	②
3	問2の魚をつかった肥料とは、主に九十九里浜などで、地引網でとった()という魚を肥料にした。		
4	大商人は農民たちを工場に集め、分業で製品を作らせたが、このような生産方法を()という。		
5	問4の工業の実例として、野田の(①)や、灘 <small>なだ</small> の(②)、桐生の絹織物 <small>きりゆう</small> などが、このやり方で生産されていた。	①	②
6	商品作物の生産がさかんになり、最上川流域で作られた(①)や、阿波 <small>あわ</small> (徳島)で作られた(②)などの染料がさかんに作られた。	①	②
7	農具として、深く耕せる備中ぐわ <small>びっちゅう</small> や、脱穀 <small>だつかく</small> に使われる(①)や、もみがらやごみを吹き飛ばす(②)などが開発された。	①	
		②	
8	有力な商工業者がつくった同業者組合を(①)という。また金・銀・銭の3種類のお金の交換をおこなう、現在の銀行のような仕事の商人を(②)という。	①	②
9	江戸・大阪・京都は三都として栄えた。大阪は全国の産物が集められたため(①)とよばれた。大名らが大阪につくった、米などを保管する倉庫を(②)という。	①	②
10	陸上交通では、幕府は江戸の(①)を起点とする(②)という街道を定めた。	①	②

11	問10の道路について。江戸から太平洋側の海沿いをまわって京都まで行く道を(①)道という。江戸から群馬～長野と内陸を通り京都へ向かう道を(②)道という。	①	②
12	問10の道路について。江戸から甲府を経て下諏訪まで行く道を(①)という。江戸から北上して、白河まで続く道を(②)という。	①	②
13	幕府は道の要所に(①)を設けて出入りを見張った。箱根などが有名。江戸への鉄砲持ち込みと、江戸から女性が出ることの厳しい監視を「②」という。	①	②
14	手紙などを運ぶ(①)による通信も整備された。また幕府の命令で、(②)川など大きな川に橋はかけられなかった。	①	②
15	水上交通では日本海側の米などを、東北から津軽海峡まわりで江戸に送る(①)航路と、東北から瀬戸内海を通して大阪に送る(②)航路が開かれた。	①	②
16	蝦夷地 ^{えぞち} から、肥料にもなる(①)やこんぶなどを大阪に運んだ船を(②)という。	①	②
17	江戸と大阪の間を、定期的に往復する船便があった。上方から江戸へ酒を運ぶのに使われた()や、菱垣廻船 ^{ひがきかいせん} が有名である。		
18	5代将軍徳川綱吉のころ、大阪・京都などの(①)では、人情味の豊かな町人中心の文化が栄えた。この文化を(②)文化という。	①	②
19	自然と人生を見つめ、俳諧 ^{はいかい} を芸術に高めた人物は()である。彼が東北～北陸を旅した紀行文が「おくの細道」である。		
20	「曾根崎心中」など人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を書いた人物は(①)である。「世間胸算用」など浮世草子と呼ばれる町人小説を書いた人物は(②)である。	①	②
21	「見返り美人図」は()によって描かれた肉筆の浮世絵である。		
22	19世紀初めに栄えた、こっけいや皮肉を楽しむ町人文化を(①)文化という。この文化の中心地は(②)であった。	①	②
23	弥次さん喜多さんの珍道中を描いた「東海道中膝栗毛 ^{ひまくりげ} 」が大ヒットしたが、作者は()という人物である。		

24	短歌の形式を借りた (①) や、俳諧の形式を借りた (②) など、世の中を皮肉たっぷりに歌う作品が庶民に喜ばれた。	①	②
25	『 ^{ふがく} 富嶽三十六景』の作者は (①) である。『東海道五十三次』の作者は (②) である。	①	②

問21



問25



小5

◆江戸時代 (3) ◆

下巻12回

氏名

満点 とれ太

得点

各4点
100点

1	江戸時代に幕府や藩が新しい耕地を開墾 <small>かいこん</small> することを(①)という。この結果、豊臣秀吉から百年ほどの間に耕地面積は約(②)倍になった。	①新田開発	②2
2	農業の肥料として、魚をつかった肥料を(①)といい、菜の花をつかった肥料を(②)という。	①ほしか	② <small>あぶら</small> 油かす
3	問2の魚をつかった肥料とは、主に九十九里浜などで、地引網でとった()という魚を肥料にした。	いわし	
4	大商人は農民たちを工場に集め、分業で製品を作らせたが、このような生産方法を()という。	工場制手工業 (マニユファクチュア)	
5	問4の工業の実例として、野田の(①)や、灘 <small>なだ</small> の(②)、桐生の絹織物 <small>きりゆう</small> などが、このやり方で生産されていた。	①しょう油	②酒
6	商品作物の生産がさかんになり、最上川流域で作られた(①)や、阿波 <small>あわ</small> (徳島)で作られた(②)などの染料がさかんに作られた。	①紅花	② <small>あい</small> 藍
7	農具として、深く耕せる備中ぐわ <small>びっちゅう</small> や、脱穀 <small>だつかく</small> に使われる(①)や、もみがらやごみを吹き飛ばす(②)などが開発された。	①千歯こぎ	
		② <small>とう</small> 唐み	
8	有力な商工業者がつくった同業者組合を(①)という。また金・銀・銭の3種類のお金の交換をおこなう、現在の銀行のような仕事の商人を(②)という。	① <small>かぶなかま</small> 株仲間	② <small>りょうがえしょう</small> 両替商
9	江戸・大阪・京都は三都として栄えた。大阪は全国の産物が集められたため(①)とよばれた。大名らが大阪につくった、米などを保管する倉庫を(②)という。	①天下の台所	② <small>くらやしき</small> 蔵屋敷
10	陸上交通では、幕府は江戸の(①)を起点とする(②)という街道を定めた。	①日本橋	②五街道

11	問10の道路について。江戸から太平洋側の海沿いをまわって京都まで行く道を(①)道という。江戸から群馬～長野と内陸を通り京都へ向かう道を(②)道という。	①東海	②中山 <small>なかせん</small>
12	問10の道路について。江戸から甲府を経て下諏訪まで行く道を(①)という。江戸から北上して、白河まで続く道を(②)という。	①甲州街道 <small>こうしゅう</small> (甲州道中)	②奥州街道 <small>おうしゅう</small> (奥州道中)
13	幕府は道の要所に(①)を設けて出入りを見張った。箱根などが有名。江戸への鉄砲持ち込みと、江戸から女性が出ることの厳しい監視を「②」という。	①関所	②入り鉄砲に出女
14	手紙などを運ぶ(①)による通信も整備された。また幕府の命令で、(②)川など大きな川に橋はかけられなかった。	①飛脚 <small>ひきやく</small>	②大井
15	水上交通では日本海側の米などを、東北から津軽海峡まわりで江戸に送る(①)航路と、東北から瀬戸内海を通して大阪に送る(②)航路が開かれた。	①東廻り <small>ひがしまわ</small>	②西廻り <small>にしまわ</small>
16	蝦夷地から、肥料にもなる(①)やこんぶなどを大阪に運んだ船を(②)という。	①にしん	②北前船 <small>きたまえぶね</small>
17	江戸と大阪の間を、定期的に往復する船便があった。上方から江戸へ酒を運ぶのに使われた()や、菱垣廻船が有名である。	①樽廻船 <small>たるかいせん</small>	
18	5代将軍徳川綱吉のころ、大阪・京都などの(①)では、人情味の豊かな町人中心の文化が栄えた。この文化を(②)文化という。	①上方 <small>かみがた</small>	②元禄 <small>げんろく</small>
19	自然と人生を見つめ、俳諧を芸術に高めた人物は()である。彼が東北～北陸を旅した紀行文が「おくの細道」である。	①松尾芭蕉 <small>まつおばしょう</small>	
20	「曾根崎心中」など人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を書いた人物は(①)である。「世間胸算用」など浮世草子と呼ばれる町人小説を書いた人物は(②)である。	①近松門左衛門 <small>ちかまつもんざえもん</small>	②井原西鶴 <small>いはらさいかく</small>
21	「見返り美人図」は()によって描かれた肉筆の浮世絵である。	①菱川師宣 <small>ひしかわもろのぶ</small>	
22	19世紀初めに栄えた、こっけいや皮肉を楽しむ町人文化を(①)文化という。この文化の中心地は(②)であった。	①化政 <small>かせい</small>	②江戸
23	弥次さん喜多さんの珍道中を描いた「東海道中膝栗毛」が大ヒットしたが、作者は()という人物である。	①十返舎一九 <small>じっぺんしゃいっく</small>	

24	短歌の形式を借りた (①) や、俳諧の形式を借りた (②) など、世の中を皮肉たっぷりに歌う作品が庶民に喜ばれた。	きょうか ① 狂歌	せんりゅう ② 川柳
25	『 ^{ふがく} 富嶽三十六景』の作者は (①) である。『東海道五十三次』の作者は (②) である。	かつしかほくさい ① 葛飾北斎	うたがわひろしげ ② 歌川広重

問21



問25

